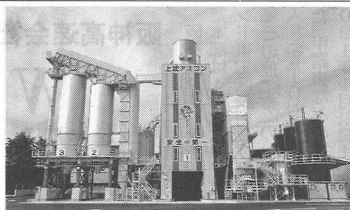


上武アスコン・プラント火入れ

日本道路と所沢サンロード

日本道路と所沢サンロード（埼玉県所沢市、奥野浩社長）が群馬県太田市で計画していた上武アスコン・プラントの「写真」の建て替え工事が完了し、両社は11月25日に現地で新しいプラントの火入れ式を開いた。式典には関係者約40人が参加。日本道路の久松博三社長ら5人が点火スイッチを押し、プラントを稼働させた。

式典であいさつした久松社長は「新たに生まれ変わった上武アスコンは、最大保管容量260トの合材サイロ2本を備えるなど、大型工事対応可能な工場になっている。今後は自然災害



などの緊急時の対応拠点としての機能向上を図り、地域に根差した工場として運営していく」と述べた。

上武アスコンでは日本道路と所沢サンロードのJVがアスファルト合材の製造販売などを行っていたが、建設から46年が経過し、老朽化が進んでいたことから

建て替えた。施設の更新に当たっては材料ヤードと廃材ヤードのレイアウトを変更した。これまでプラント前に集中していた場内車両走行の導線を分散させることで、安全性を確保した。

建て替え後の上武アスコンの合材出荷能力は1時間当たり120ト。合材サイロは1本（120ト）だったのを2本に増やし、容量も260トと2倍以上に増やした。大型工事への対応を強化し、さらにそれぞれ

の合材サイロに無人出荷システムを導入することで休日出荷・夜間出荷の顧客ニーズへの対応を向上させた。